

論文

「社会人に必要な力」を大学生活の中で育成することを
学生はどうとらえているか

The Perception of University Students about promoting Fundamental Competencies for Working Persons in the University Life.

松浦 美晴¹⁾・神戸 康弘²⁾

キーワード：大学生，社会人の基礎的能力，キャリア教育

Key Words: university students, fundamental competencies, carrier education

背景

近年，労働や教育に関する能力のあり方を「力」という接尾語とともに表現することが，頻繁に行われるようになった（牧野，2012）。その1つに，「社会人基礎力」がある。これは，経済産業省が2005年から2006年にかけて提唱した，「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」のことである。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」という3つの能力と，それらが包含する全部で12の能力要素から成り立っている。

経済産業省（2007）が発表した『「社会人基礎力」育成のススメについて（レファレンスブック）』の中には，次の記述がある。

（前略）社会に一旦出てみると，職場や地域社会で仕事を行うにあたってペーパー試験を解くことはまずありません。求められるのは，「知識」を適用する場面を自ら判断し，「社会人基礎力」を使って多くの人と成果を創り上げていくことです。（p.5）

そして，この『レファレンスブック』は，「社会人基礎力」が育成される場面は授業のみならず日常の学生生活，例えばクラブ・サークル活動，アルバイトなどにある，としている。同様の主張は，最近では，医療現場で看護師に求められる人間力を検討した吉岡（2014）にもみられる。吉岡は，近年のコンピテンシー的に表現された力の中には，学力だけでなく，若者が過去の教育で学んでこなかった「複雑で矛盾を含んだ実際の生活に即した人間力」が含まれているとし，後者を身につけさせることが課題であると指摘した。これらから，社会

1) 山陽学園大学総合人間学部生活心理学科

2) 山陽学園大学総合人間学部生活心理学科

人基礎力の育成は、座学によって達成されるものではなく、様々な矛盾や理不尽を含んだ日常生活の経験を通してなされるものといえる。

日常生活の経験を通しての力の育成については他にも検討されている。労働政策研究・研修機構（2007）は、「アルバイトを通じて知り合った人の人生経験や職業観に影響を受けた。」という、大卒2か月後の女性による記述を紹介している。江口（2009）は、大学生へのインタビュー調査を行い、インターンシップは仕事の業務的なスキルの習得や企業文化等の経験になっているのに対し、サークル活動は組織をまとめることを通じたコミュニケーション能力やリーダーシップの育成に適しているという結果を示した。向居（2013）は、なんらかの正課外活動に積極的に取り組んだ学生は、そうでない学生よりも、社会人基礎力の能力要素における自己評定値が高くなる傾向にあることを示した。また、山口大学では、社会人基礎力の診断システムによる自己現状把握と社会人基礎力を高めるためのマニフェストの宣言を学生に求める取り組みが行われた（平尾，2014）。ここでのマニフェストの内容は、「いつもは見ているだけの学生実験を自らすすんでやる」「アルバイト先の上司や同僚に自分から話しかける」といった具体的な目標であり、大学生活でのあらゆる活動を力の獲得の機会ととらえたものであった。

こうした、日常の大学生活の経験を通しての力の育成を、学生は認識しているだろうか。松浦・神戸（2013）が、授業で学生に課した課題を材料に、学生のとらえる「社会人として必要とされる力」を検討したところ、学生が「大学生活において伸ばせる力」と回答した中に「業務を行う力」に相当するものが少なく「業務に必要な力」を「大学生活を通して伸ばすことができる」とはとらえていないことが示唆された。学生に十分な認識があるとはいえない。

目的

こうした背景をふまえ、本研究では、『社会人として必要とされる力』を大学生活においてどのように伸ばしてゆくかを学生に考えさせる授業を実施した。そこで行ったアンケートと授業後のレポートを分析し、学生が「社会人として必要とされる力」を大学生活で育成することについて、どのようにとらえているかを把握した。特に、大学生がとらえる「自分の持っている力・持っていない力」、「大学生活で育成できる力」「力の育成につながる大学生活での活動」の3つに焦点をあて検討した。

なお、本研究は、授業としての教育上の効果を評価する立場ではなく、受講する学生の考え方の現状を調査する立場を取ることにした。

方法

授業の概要

A大学総合人間学部生活心理学科2年次の開講科目「生活心理学演習A」の中で、「こころとビジネス」をテーマとし、2回からなる授業を実施した。授業の履修者は37名であり、うち男性9名、女性28名であった。外国人留学生4名が含まれていた。

第1回授業では、「社会人に必要な力」について講義を行ったあと、「社会人に必要とされる力」の育成について回答を求めた。回答者の属性と「必要な力」へのとらえ方との関連を分析したうえで、第2回授業で結果を教材としてフィードバックし、『社会人に必要とさ

れる力』を身につけるために大学生活でどうすればよいか」を考えるディスカッションを行った。

第 1 回授業 まず、「社会人に必要な力」について講義を行った。教材として、次の①から③を取り上げ、解説を行った。①企業と大学による「社会人に必要とされる力」の議論として、『Future Skills Project 研究会』「社会で活躍するために必要な力とは？」(ベネッセ教育総合研究所, 2012)を取り上げた。②次に、労働や教育に関する能力のあり方として、「生きる力」(1996年, 中央教育審議会)、「キー・コンピテンシー」(1997-2003年, OECD (経済協力開発機構))、「人間力」(2003年, 内閣府)、「社会人基礎力」(2005-2006年, 経済産業省)を取り上げた。③「人が職場において向上させる能力」(中原, 2010)を取り上げた。

続いて、受講者に質問紙への回答を求めた。まず、回答者の属性として「性別」「課外活動への参加」「アルバイトへの従事」「インターンシップ参加意思」「卒業後の進路についての意思決定状況」についての回答を求めた。

次に、複数の「社会人に必要とされる力」(表 1)を選択肢として示し、「自分がすでに持っている力」「自分が持っていないが、伸ばしたいと思っている力」「大学生活において伸ばすことができると思う力」「大学生活では伸ばすことができないと思う力」を選択するよう求めた。表 1 の選択肢は教材の「社会人基礎力」(2005-2006年, 経済産業省)と「人が職場において向上させる能力」(中原, 2010)をもとに作成した。

最後に、「『大学生活において伸ばすことができると思う力』をどうすれば伸ばせると思うか」、「『大学生活では伸ばすことができないと思う力』をどうして伸ばすことができないと思うか」、について自由記述を求めた。

ディスカッション課題の作成 回収した質問紙の回答を SPSS Categories を使った「コレスポネンダ分析(Correspondence Analysis:CA)」により分析し、第 2 回授業で課すディスカッション課題を作成した。「自分がすでに持っている力」「自分が持っていないが、伸ばしたいと思っている力」「大学生活において伸ばすことができると思う力」「大学生活では伸ばすことができないと思う力」と回答者の属性との 2 次元布置図をコレスポネンダ分析によって出力した。その中から属性との関連を視認しやすいと考えられた図を選択し、ディスカッション課題の資料とした。

第 2 回授業 第 1 回授業の 2 週間後に第 2 回授業を実施した。受講者をくじ引きによって 4~5 名ずつのグループに分け、グループ内で「どうすれば力を育成できるのか、伸ばすことができるのか」についてディスカッションを行うよう求めた。ディスカッションの課題を表 2 に示す。ディスカッションの後、グループ発表を行った。

続いて、受講者にレポートを作成するよう求めた。レポートの課題は、「この授業で『社会人に必要な力』について考えてみて、どのような気づきがありましたか。あるいは、どのような感想を持ったのでしょうか。わかりやすく述べてください。」であった。

研究の倫理的配慮

本研究は、山陽学園大学・短期大学研究倫理審査委員会の承認を受けた。倫理的配慮を次のように行った。配布する質問紙とレポート用紙には、研究目的と意義、教材としての使用についての説明文を記載し、配布と同時に口頭による説明を行った。第 1 回授業で用いた質問紙は無記名とした。第 2 回授業で用いたレポートについては別に同意書の提出があつ

たレポートのみを分析の対象とした。

第 1 回授業における調査結果と考察

回答者の属性と「持っている力」との関係

第 1 回授業では、28 名から回答を得た。「自分がすでに持っている力」の上位 3 つは、「傾聴力」「規律性」「創造力」であった。回答者の属性と「持っている力」との関係を検討するために行ったコレスポネンス分析の結果を示す。

性別 回答者のうち 7 名が男性、21 名が女性であった。男性の回答数が少ない点を考慮する必要はあるが、参考として「性別（男女）」と「自分がすでに持っている力」との関係を次に示す。性別のみの 2 次元布置図に「持っている力」を重ね合わせたものが図 1 である。この図 1 を、第 2 回授業のディスカッション課題の資料として用いた。

この図から次のことがいえる。女性は、「規律性」「柔軟性」「傾聴力」「計画力」などに自信を持っている。男性は、「自己理解」「ストレスコントロール力」「タフネス」などに自信を持っている。「他部門調整能力」「働きかけ力」「視野拡大」などは男女に関係なく共通して見られるが、原点から離れているため、少数意見であり男女とも自信を持っていないことがわかる。

課外活動への参加 参加している課外活動は、「大学内の文科系クラブやサークル」が 11 名、「大学内の体育会系クラブやサークル」が 3 名、「学友会」が 2 名、「大学祭実行委員会」が 3 名、「学外の体育会系クラブやサークル」が 1 名、「その他」が 1 名、「課外活動には参加していない」が 7 名であった。「課外活動への参加」に「持っている力」を重ね合わせた 2 次元布置図が図 2 である。この図 2 を、第 2 回授業のディスカッション課題の資料として用いた。

この図から次のことがいえる。「大学祭実行委員会」「学友会」「大学内の文科系クラブやサークル」に所属している者の周りには、「課題発見力」「規律性」「発信力」「実行力」など多くの力が集中しており、このような活動をしている者は多くの力を持っていることがわかる。また「学内体育会系サークル」に所属している者は、「働きかけ力」「他部門調整能力」などには自信を持っていることがわかる。一方、「参加せず」の近くには、「なし」があり、自分の力に自信がない傾向にあること、しかし「創造力」が近くにあり、創造力には自信を持っていることがわかる。

アルバイトへの従事 従事しているアルバイトは、「飲食店」が 16 名、「スーパーやコンビニエンスストア」が 4 名、「その他」が 4 名、「アルバイトはしていない」が 3 名であった。「アルバイトへの従事」に「持っている力」を重ね合わせた 2 次元布置図が図 3 である。この図 3 を、第 2 回授業のディスカッション課題の資料として用いた。

この図から次のことがいえる。一番多かった「飲食店」でのアルバイト体験の周りには、規律性、実行力、傾聴力、課題発見力などがあり、このような力を持っていることがわかる。ただ「なし」も近くにあり、このようなアルバイトをしながら力を持っていないと考える者もいることもわかる。またアルバイトを「していない」も近くにあり、飲食店でのアルバイトをしている者とアルバイトをしていない者との違いはあまり見られない。また「その他」のアルバイトの周りに「働きかけ力」「業務能力」などがあつたが、その他のアルバイトの内容は「ガソリンスタンド」「花屋」などであり、これらのアルバイトに従

事する者が、専門の力を持っていると考えていることがわかる。

インターンシップへの参加予定 インターンシップに「参加する」が16名、「参加しない」が8名、「まだ決めていない」が4名であった。「インターンシップへの参加予定」に「持っている力」を重ね合わせたものが図4である。

この図から次のことがいえる。これから予定されるインターンシップに「参加する」と答えた者は、「主体性」「状況把握力」「働きかけ力」があると思っっていることがわかる。また「参加しない」の近くには「なし」があり、今の力に自信がないため「参加しない」と考えている可能性があることがわかる。

卒業後の進路決定状況 卒業後の進路を「決めている」が6名、「漠然とであるが決めている」が10名、「決めていない」が12名であった。「卒業後の進路決定状況」に「持っている力」を重ね合わせたものが図5である。この図5を、第2回授業のディスカッション課題の資料として用いた。

この図から次のことがいえる。卒業後の進路を「決めている」者は、「計画力」「規律性」「主体性」「実行力」などに自信を持っていることがわかる。また卒業後の進路を「漠然と決めている」と答えた者は、「状況把握力」「視野拡大」などが近くになり、だいたい決めているものの、状況を見ながら進路を決めようとしていること、視野を拡大しより良い進路を模索していること、あるいはそういう能力に自信を持っている可能性があることがわかる。また進路を決めていない者の近くには、「なし」があり、特に今持っている力がなく、そのために進路を決められない可能性があることがわかる。

以上の結果から、回答者の属性と「自分がすでに持っている力」との関係において、特に、課外活動に参加している学生は、多くの力を「持っている」と考えていることがうかがえる。「大学祭実行委員会」や「学友会」「大学内の文科系クラブやサークル」の参加者が持っていると考えている、「課題発見力」「発信力」「実行力」は、大学祭や学友会組織の運営において求められる個々の具体的な作業や仕事において必要なであろう。また複数の人間が組織として1つの目標を成し遂げていく中で、「規律性」が必須なのであろう。

「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義されるライフスキルと大学生の課外活動の関係を調査した平井・木内・中村・浦井(2012)では、体育会所属者によるライフスキルの自己評価は、無所属者・文化会所属者より有意に高いという結果であった。本研究でも、「大学内の体育会系クラブやサークル」の参加者は「働きかけ力」「他部門調整能力」を持っていることが示された。特に「他部門調整能力」は、松浦・神戸(2013)において、学生が「大学生活において伸ばせる力」と考えていなかった「業務を行う力」の1つであり、参加者がこの力を「持っている」と考えていることは、体育会系サークル活動の意義を示しているといえる。

「大学生活において伸ばすことができると思う力」と「どうすれば伸ばせるか」との関係

「大学生活において伸ばすことができると思う力」の選択頻度の上位3つは、「課題発見力」「主体性」「働きかけ力」であった。

「大学生活では伸ばすことができないと思う力」の上位3つは「業務能力」「他部門理解」「他部門調整能力」であった。「大学生活では伸ばすことができないと思う力」について、その理由として記述された内容は、「実際に社会に出てみないとわからない」「アルバイトで

は経験できない」であった。既述のように、松浦・神戸（2013）では、学生が「業務に必要な力」を、「大学生活において伸ばせる力」と考えていなかったが、その背景にも、「業務を行う力」の内容は実際に社会に出ないとわからないという学生のとらえ方が、同様にあったのかもしれない。

「どうすればその力を伸ばすことができるか」の自由記述を分析するため、文章に出現した語を分類し、28の「ワード」に集約した。例えば「授業」「サークル」「学祭実行委員」などの名詞、「積極的に」などの形容詞、副詞、「他者意見聴く」など動詞も含まれた。また「積極的に」は、「積極的に、やる気出す、意欲的に、自ら進んで、受身でなく」を統合したものであり、他もできるだけワードを統合した。

次に、「伸ばすことができると思う力」と各ワードとのクロス集計表を作成した。このとき、自由記述欄に「授業やサークル、学祭実行委員で身につく」と既述された場合は、授業、サークル、学祭実行委員のそれぞれに数えた。

「伸ばす方法」の各ワードと「伸ばすことができると思う力」との関係を検討するため、クロス集計表に対しコレスポネンス分析を行った。「伸ばすことができると思う力」のみの2次元布置図では、「課題発見力」「主体性」など回答の多かったものが原点近辺に集まった。ワードのみの2次元布置図では、回答の多かった「授業」「サークル」などが原点(0,0)近辺に集まった。この2つのデータの対応関係を分析したコレスポネンス分析の結果が図6である。

この図から次のことがいえる。中心にある「授業」「サークル」「積極的に」の周りに、「主体性」「課題発見力」「計画性」「創造力」「柔軟性」など多くの力が集まっており、「授業」と「サークル活動」、および全ての活動に「積極的に」関わることで、多くの力が身につくと考えている。「学祭実行委員」「学友会」「SSS（学科内の学生によるピアサポート団体）」「ボランティア」「サークル」など「学内課外活動」に積極的に関わることで、「業務能力」「働きかけ力」「タフネス」が身につくと考えている。またそれは「説得したり、依頼したりする体験」を含むためであり、そのような体験が「他部門理解能力」「他部門調整能力」の育成にも役立つと考えている。「バイト」「様々な人と接する」「他者の意見聴く」は、「自己理解」「視野拡大」に役立つと考えている。「規律性」は、「バイト」や「宿題を毎回提出」「毎回授業に遅刻せず出席する」「レポート課題を毎回提出する」ことでも身につくと考えている。「グループ作業」で、「傾聴力」「発信力」が身につくと考えている。「本を読む」「ディスカッション」は、「発信力」の育成につながると考えている。

「どうすればその力を伸ばすことができるか」と「伸ばすことができると思う力」との関係についての学生のとらえ方は、日常生活の経験を通しての力の育成について先行研究が提唱しているものと同様といえる。

第2回授業における調査結果と考察

第2回授業で提出されたレポートのうち、同意の得られた18名（うち男性2名、女性16名）分をデータとし、受講後の「気づき」を分析した。自由記述欄の内容を検討し、カテゴリー化を行った。

「気づき」について、「社会人基礎力」への気づき、「4年間の過ごし方」への気づき、「男女の違い」への気づき、「グループワーク」への気づき、「他の学生」への気づき、という5

つの「気づき」があったことがわかり、それらをメインカテゴリーとした。そして、「社会人基礎力」への気づきには、「意外な力」「企業とのギャップ」「伸ばせる力、伸ばせない力」「自分が思う必要な力」という 4 つのサブカテゴリー、「4 年間の過ごし方」への気づきには、「全般」「アルバイト、サークル、部活動」「実行委員会、学友会」「インターンシップ、将来の進路」という 4 つのサブカテゴリーが含まれる形になった。以上の結果を、補足と、実際の学生コメントと共にまとめたものが表 3 である。これらを見る限り、学生にとって社会人基礎力に関する多くの多種多様な気づきがあったことがわかる。

「社会人に必要な力」を大学生活の中で育成するために

本研究が用いたデータは、「社会人に必要な力」についての講義直後のものであり、直前の講義の影響を受けていたと考えられる。また、1 大学の特定学部学科の少人数の学生についてのデータである。したがって、本研究の結果を直ちに一般化することは難しい。こうした限界を押さえたうえで、本研究の結果を教育に反映させることを考えてみたい。

まず、学生は、「業務能力」「他部門理解」「他部門調整能力」を「大学生活では伸ばすことができない」と考えており、その理由として「実際に社会に出てみないとわからない」「アルバイトでは経験できない」としていた。その一方、「大学祭実行委員会」ではそれらを伸ばせるとの回答があった。「自分がすでに持っている力」との関係において、「大学内の体育会系クラブやサークル」の参加者が「他部門調整能力」を持っていると考えていたことも、活動によっては業務に必要な能力を伸ばせると考える学生がいることを示す。「大学祭実行委員会」や「大学内の体育会系クラブやサークル」といった特定の活動への参加経験のある学生は限られており、参加経験のある者となない者との間にとらえ方の違いがあるのかもしれない。学生がさまざまな活動に参加できるよう大学側がサポートすることで、学生のとらえ方は変わるかもしれない。

一方、大学生活の中で社会人基礎力を身につける場面が多いと学生がとらえていることも示された。特に、授業の中に社会人基礎力を身につける機会があるとするとらえ方が多々みられた。例えば、「授業に毎回出席する」「宿題を提出する」ことで「規律性」が、グループ作業をすることで「傾聴力」が、ディスカッションで「説得力」や「依頼力」が身につくと考えていた。授業以外では、サークル活動や学祭実行委員会で「働きかけ力」や「タフネス」が身につくと考えていた。

こうした大学生活と力の育成との関係を学生に見えるようにする「見える化」によって、力の育成が促進されると考えられる。例えば今回、「持っている力」とアルバイトへの従事との関係において、飲食店でのアルバイトをしている者とアルバイトをしていない者との違いがあまり見られなかった。飲食店でのアルバイトは学生にとってありふれた活動であるために、力を育成する機会とはとらえられにくいなのかもしれない。このような、意識されていない機会に気づかせることが大切である。

既述の山口大学で学生に求めたマニフェストの宣言(平尾, 2014)は、日常の学生生活を力の育成の場にとらえさせることを狙ったものであった。本研究の結果からも、大学生活を何となく過ごすのではなく、「今、学祭実行委員で『働きかけ力』が身についている」、「授業に無遅刻無欠席を続けることで規律性が身についた」、のように、活動によって力が身につけていることを自分で理解できるようにすることが重要といえる。

このことは、就職活動への自信にもつながると考えられる。例えば、就職活動で自己アピールが求められる際、特別な経験や資格がなくとも、日常の大学生活を通して多くの社会人基礎力を身につけたというアピールの仕方も可能となる。そのためにも、大学生活で育成される力の「見える化」には意義があるといえよう。

文献

- ベネッセ教育総合研究所 (2012). Future skills project 研究会の議論を追う 「社会で活躍するために必要な力とは？」 VIEW21 [大学版] 2012 特別号 13-18. ベネッセコーポレーション <<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/dai/view21/2012/03/pdf/03.pdf>> (2013年11月29日)
- 江口彰 (2009). インターンシップと正課外活動の経験比較 年報 (日本インターンシップ学会), 12, 33-38.
- 平井博志・木内敦詞・中村友浩・浦井良太郎 (2012). 大学期における課外活動の種類とライフスキルの関係 大学体育学, 9, 117-125.
- 平尾元彦 (2014). 山口大学におけるキャリア学習の取り組み 大学教育 (山口大学大学教育機構), 11, 36-42.
- 経済産業省 (2006). 社会人基礎力に関する研究会「中間取りまとめ」 経済産業省 2006年1月20日 <<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/chukanhon.pdf>> (2013年11月29日)
- 経済産業省 (2007). 「社会人基礎力」育成のススメについて (レファレンスブック) <<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286890/www.meti.go.jp/press/20070517001/20070517001.html>> (2014年9月16日)
- 牧野智和 (2012). 自己啓発の時代 「自己」の文化社会学的探究 勁草書房
- 松浦美晴・神戸康弘 (2013). 学生のとらえる「社会人に必要とされる力」 山陽論叢, 20, 77-87.
- 文部科学省 OECD における「キー・コンピテンシー」について <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/05111603/004.htm> (2013年11月29日)
- 向居暁 (2013). 大学生の正課外活動と社会人基礎力：幼児・児童教育関連学部卒業生において 日本教育心理学会総会発表論文集, 55, 246.
- 内閣府 (2003). 人間力戦略研究会報告書 若者に夢と目標を抱かせ、意欲を高める ～信頼と連携の社会システム～ 内閣府 2003年4月10日 <<http://www5.cao.go.jp/keizai1/2004/ningenryoku/0410houkoku.pdf>> (2013年11月29日)
- 労働政策研究・研修機構 (2007). 労働政策研究報告書 No.78 大学生と就職 職業への移行支援と人材視点からの検討
- 中央教育審議会 (1996). 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について (第一次答申) 中央教育審議会 1996年7月19日 <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/960701.htm> (2013年11月29日)
- 吉岡由喜子 (2014). 現代の医療現場を生き抜くために、看護師に求められる人間力の検討：

「生きる力」・社会人基礎力・「キー・コンピテンシー」の比較考察を通して 太成学院
 大学紀要, 16, 157-165.

表1 「社会人に必要とされる力」の選択肢

「主体性 物事に進んで取り組む力」
「働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力」
「実行力 目的を設定し確実に行動する力」
「課題発見力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力」
「計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」
「創造力 新しい価値を生み出す力」
「発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力」
「傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力」
「柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力」
「状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力」
「規律性 社会のルールや人との約束を守る力」
「ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応する力」
「業務能力 仕事をしていく上で必要な一般的なコツ、ノウハウをつかみ、自己の判断で業務遂行ができる」
「他部門理解 職場において、自分の所属する部門以外の他部門の立場や業務を理解し、相手の意見を尊重しながら仕事をする事ができる」
「他部門調整能力 複数の多様な部署の他者と調整しながら仕事を進めることができる」
「視野拡大 自分の仕事をより大きな立場や多様な観点から見つめることができる」
「自己理解 自分自身あるいは自分の仕事を冷静に振り返り、理解を深めることができる」
「タフネス 仕事をしていく上で生じる様々なストレスや葛藤に対処することができる」

表2 第2回授業でのディスカッション課題

-
- ① 「今持っている力」と「性別」のコレスポネンデンス分析による2次元空間布置図
 課題1, このマップから何が言えますか。男性と女性でどのような違いがありますか。
 課題2, 次元1(ヨコ)と次元2(タテ)はそれぞれ何を表していると思いますか。
 - ② 「今持っている力」と「課外活動」のコレスポネンデンス分析による2次元空間布置図
 このマップから何が言えますか。課外活動の違いから「今持っている力」の認識にどのような差があるのでしょうか。
 - ③ 「今持っている力」と「アルバイト」のコレスポネンデンス分析による2次元空間布置図
 このマップから何が言えますか。アルバイト状況の違いから「今持っている力」の認識にどのような差があるのでしょうか。
 - ④ 「今持っている力」と「卒業後進路」のコレスポネンデンス分析による2次元空間布置図
 このマップから何が言えますか。卒業後進路を「決めている人」と「決めていない人」の違いは何でしょうか。
-

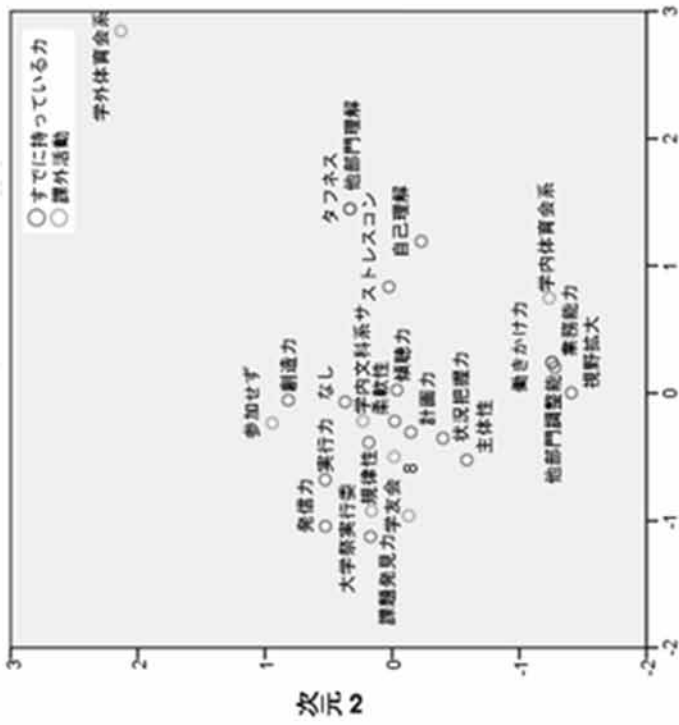


図1 性別に「持っている力」を重ね合わせた2次元布置図

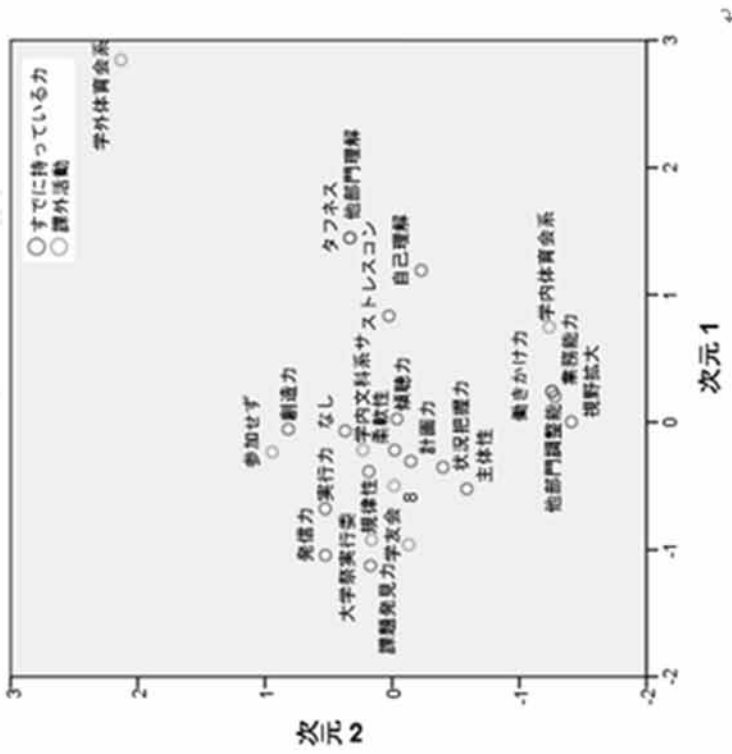


図2 課外活動への参加に「持っている力」を重ね合わせた2次元布置図

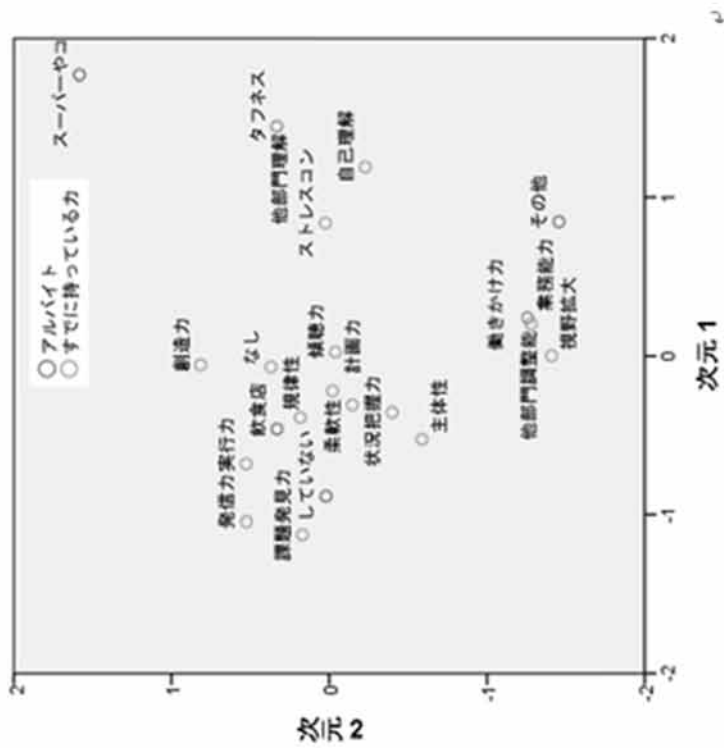


図 3 アルバイトへの従事と「持っている力」を重ね合わせた 2 次元
配置図

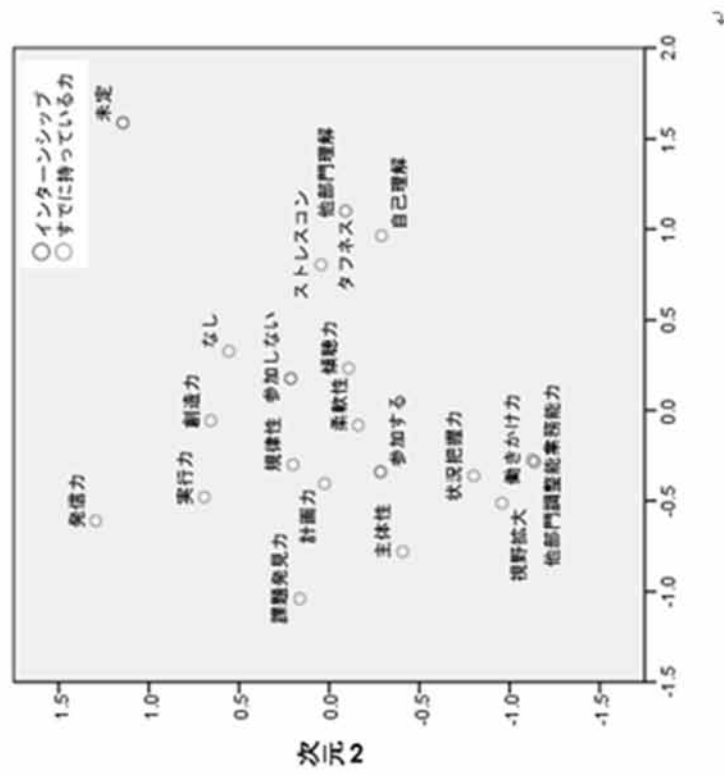


図 4 インターンシップへの参加予定と「持っている力」を重ね合わせた
2次元配置図

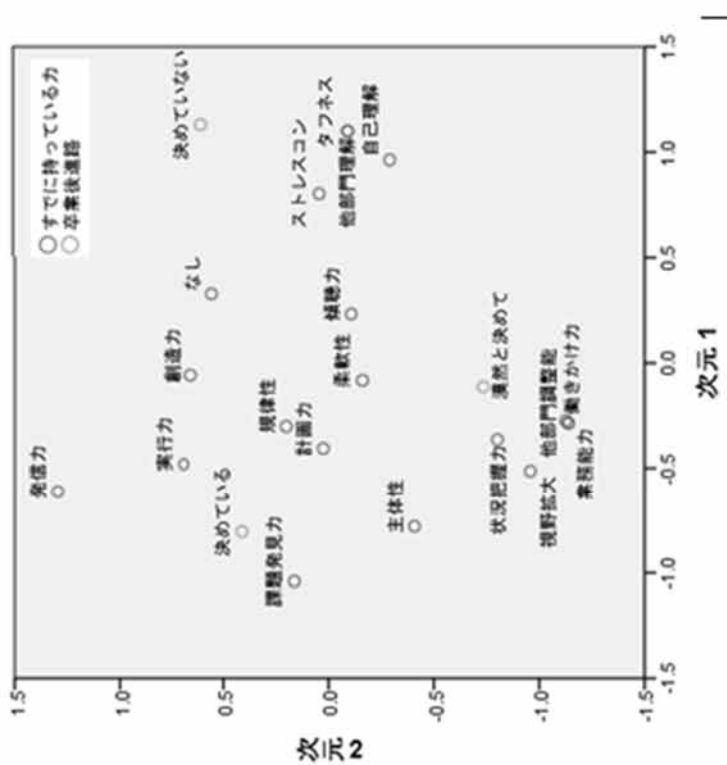


図5 卒業後の進路決定と「持っている力」を重ね合わせた2次元布置図

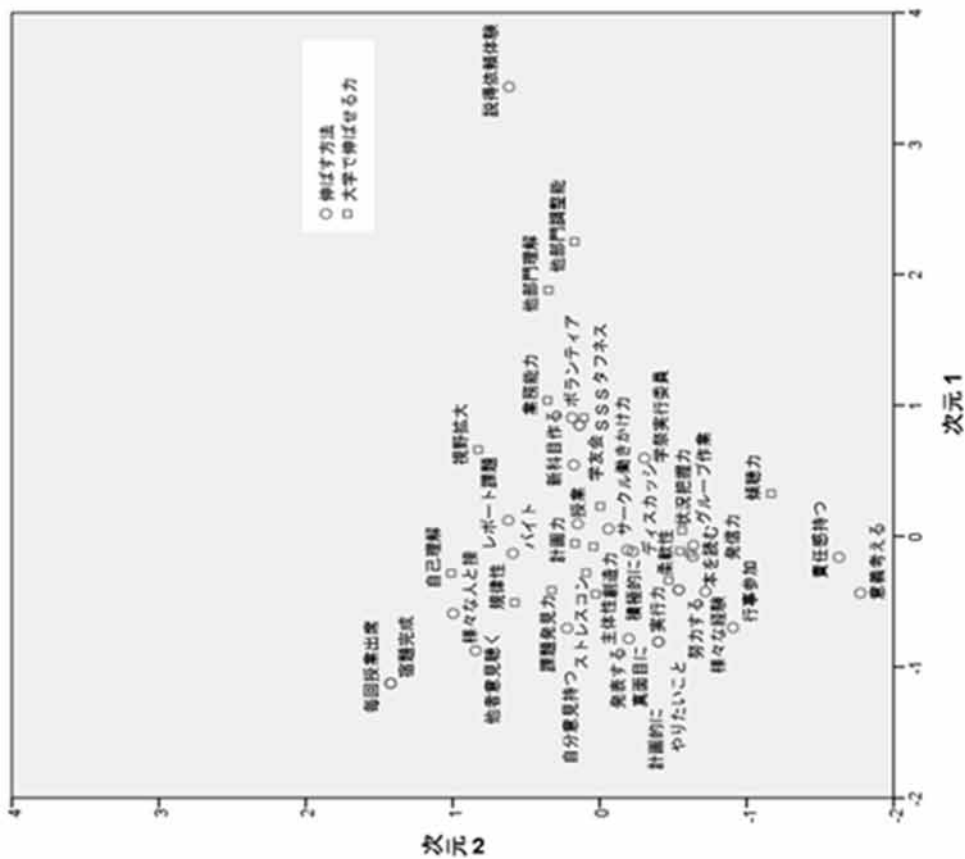


図6 「大学生活で伸ばすことができる力」と「力を伸ばす方法」を重ね合わせた2次元布置図

表 3 受講後の「気づき」に関する自由記述欄の分析結果

気づき-メ インカテコ リー	サブカテコ リー	補足	学生コメント
①「社会人差 能力」への気 つき	意外な力	【今まで】 勉強ができる人、まじめな 人、実行力 ↓ 【気づき】 ストレスコントロール力、自 己理解力、課題発見力、自分 の意見をもちている人、それ が言える人、話し合いがで きる人、働きかける力	「社会人に必要な力として、柔軟性や実行力は重要だと思っていた。しかし、そういう「仕事が出るかどうか」の面 だけではなく、ストレスをうまくコントロール出来るかや自己理解力も重要であると思った。いくらか仕事が出来な い、そういう個人が理解していかないと、ストレスが溜まって来た時にどう対処していけば良いのかわか らず体を壊してしまう可能性も少なくない。」「就職する為には、勉強ができる人で、まじめな人などといったことが重 要だと思っていた。でもそればかりではなく、課題発見力があつたり、自分の意見をちゃんともっている人、それ が言える人、話し合いができる人などといった能力が大事なんだとわかりました。また、グループワークを実際に自分 の意見を進んで言ったり、意見を聞いて話し合いができるということも本当に必要な力だと思いました。」「社会人に はストレスをコントロールする力や実行力など、メンタルとともに自ら働きかける力が大切である。大学で課題発見力 や働きかけ力、実行力、発想力、傾聴力など、社会にでたときに必要な力をみにつけ、みがいていなければ、社会人に なつたとき、ついていけないのだらうなと感じた。」
企業とのギ ヤップ	伸ばせる力、 伸ばせない 力		「大学生が思っている社会人になるため、就職するために必要な力と、企業側が思っている必要な力が違うことに気づ いた。」
自分が思う 必要な力	広い視野を持つこと、冷静に 考えること、周りを見る力、 行動力と積極的		「社会人に必要な力、私たちは実行力や計画力は今持っている力と考えているが、社会に出ないとわからない力（他 部門調整能力、業務能力）はあまり成長しないのだと思った。アルバイトと正社員とでは、意識も違うと思うから、現 時点の大学生活で培うことのできる能力を伸ばしていけばいいんじゃないかと思う。」
全般			「4年間の間で少なくとも何かをすれば、得られるものやスキル、力は広く大きいので、絶対した方が得、就職に有利 なのだと思った。」
「4年間の 過ごし方」へ の気づき			「社会に必要な力は社会に出てから学んでもいいが、ある程度は社会に出る前（学生のうち）から勉強していてもいい と思う。」「仕事をしない人でも、仕事をしている人の仕事の内容によって、持っている力が同じと感じているとい

	<p>うことがわかってすこいおもしろかった。社会人に必要な力は、さまざまな場面で獲得でき、たとえ仕事をしていなくても力を持つてということが理解できた。」「今持っている力とアルバイト」「今持っている力と課外活動」の2つを比較すると、どちらも位置関係がほとんど等しかった。」</p> <p>アルバイト、 協調性、傾聴力、課題発見力、 サークル、部 働かけ力、視野が広がる 活動</p>	<p>「飲食店でバイトをしていた人、バイトをしていなかった人の今持っている力が変わらない事に疑問を感じた。しかし、冷静に考えたり、グループで話し合う事で、飲食店のアルバイトは、例えば居酒屋の場合、お客さんに注文をとって、それを報告し、メニューを運ぶというパターン化された仕事メニューなので、あまり頭を使わなくていいので、バイトをしていない人とは大して力の差がないのだなと感じた。」「アルバイトやサークル活動をしている人は協調性などが身についていると思う。また考える力や視野が広がっていく点においては、バイトやサークルは良いきっかけだと思う。自分自身もサークルもしているのにならぬかどうかわからないけれど、自分のない力にも気づけていると思うので、まだ良いと思う。」</p> <p>「アルバイトをしている人、していない人、今持っている力の差にはあまり大きく変わらないことには少し驚いたが、アルバイトをしているからといってそのバイト先の業務内容、環境によって異なるであろうし、していない人でもサークル活動や自分の趣味などに力を入れている人もあるであろうから、自分自身が能力を伸ばしたい分野に係わる活動をするのが重要なのではないかと感じた。」「アルバイトとの関係で「スーパーやコンビニ」の周りにとくに何も無いのはおかしいのではないかと少し思った。レジだけの仕事だと思われがちかもしれませんが、お客様などとお話する機会も多いですし、2、3人でレジを派にしながら様々な仕事をこなし、引き継ぎの人に迷惑をかけないように、できるだけ効率よくやらなければいけません。他にも、あげ物は曜日や天候によってどのくらいあげとけばいいかなど、様々なことを考え仕事するので、例えば、傾聴力や課題発見力など高い位置にあるものも必要になるのではないかと思った。」</p> <p>「今まで経験してきた中で、短期間のアルバイトをやってみて、傾聴力、働かけ力、などの力が身につくとき、社会人に必要な力を知らないうちに理解していたことがわかりました。」「アルバイトをしている人としていない人との差はそんなに大きくないという事実に驚き、大学生活の中でも様々な能力が学び取れることにならざるを得ない人との差は社会人に必要な力について、より深く具体的に考える良い機会となった。私たちが普段、アルバイトで培うものは、社会で活かすことのできる能力と直結するものだと考えがちだが、資料のデータからは「飲食店」と「アルバイトをしていない人」の能力に大差は見られず、アルバイトで培う経験やスキルは、アルバイト以外のサークル活動や課外活動で身につけることのできるものであると改めて考えることができた。」「大学4年間の間でバイトやサークルをしていた人としていなかった人とは、得られるものに大きな違いがあるんだなという事に気がついた。」「部活動をしている人としていない人では、社会性に大きく違いがあると思いました。ですが、部活動をしていない人にも、そうそう性があると今日初めて知りました。部活動をしていない人にもいい所があり、よって男が女、部活動している人、していない人、色々ないい面を持った人が協力して、何か一つのことをするとすばらしい物ができるとは思いませんでした。」</p> <p>実行委員会、 学友会などのサークルは、より能力を磨くことが出来るとうらやましい。」</p> <p>「インターンシップや将来の進路を決めている人とはまだ決まっていけない人には、私は大きな差があると感じている。なぜなら、決まっている人はそれに向かって何をしたらよいかという課題を見つけることができ、次のステップへと進むことができるからだ。決まっていけない人は、今後の大学生活の中で見つけることが出来ると良いと思う。」「学生でも将来のことを考えている人と考えていない人が明確に表れてきていて、インターンシップを取っても取らなくてもそんな</p>
--	--	---

<p>④「男女の違い」への気づき</p>	<p>に差は生じないことが分かりました。しかし、学生のうちに様々な経験を積んでおくことは、これからの社会にとって重要なことにもなり、何もせずに就職活動をするのは、もったいないと思った。」</p> <p>「女性を持っている能力、男性が持っている能力はそれぞれ伸ばしていくべきところだと思われ、大切にすべき資質だ。」「男と女にもそれぞれのいい所があることに気づけました。」「今持っている力について、男性と女性ではこんなに考え方が違うということが意外だと思った。」「男に必要な力と女に必要な力は共通なものもあるし、違うものもあるとおもった。」</p>
<p>⑤「グループワーク」への気づき</p>	<p>「課題をやっている時、グラフの次元 1、2 の意味が分からなかったけれど、グループで話し合う事で、意味が分かった時の喜びは大きく、それから課題を解決できた時、大きな達成感を味わえた。」「グループワークでは単純作業の繰り返しである飲食店のアルバイトで、データに表れているような能力が身につくはずがないという意見があった。その結果、これは単純作業の中で「自分には実行力がある」「自分には柔軟性がある」と発見しているだけで、何の能力も培われていない、という結論に至った。1人で考えていたときは全く異なる視点からの意見もあり、広い視野で物事を捉えるきっかけに、今日のグループワークは、なったと思う。また、グループワークの中ではどうしても「意見をもつ人」「意見をもたない人」に分かれ、その差が顕著に表れる。私のグループの中では問うている課題の「何が問われているのか」「データに表れる特徴や違い」等について意見を言うことが困難な人もいた。課題の中には難易度が高いものもあり、羞恥からくる後ろ向きな姿勢もあるのかもしれないが、「課題の発見力」とそれに向き合うポジティブな姿勢が社会人になる前の、私たち大学生に求められる。そして、それは「社会人に必要な力」に直結する能力だと、今回の講義の中で思った。」</p>
<p>⑥「他の学生」への気づき</p>	<p>自己の課題、学生間の能力差</p> <p>「他のグループは、とても話し合っていたのか、課題 4 までやっていてすごいと思いました。とくに A さんのグループは、表になにかかきわけると言うことをしていただいていたことでも驚きました。私達のグループは、おそらく、1 つ 1 つに時間をかけすぎたのだからと思います。課題 1 をするのに 10 分かかってしまった。就職するときの話しを先生が言っていてそのためのグループディスカッションをなんだろうと思いましたが、もっと積極的にならないといけないかと思いました。」「社会人に必要な力」というものに、皆共通でコミュニケーション能力など、とても大切な力が必要だと気付いていたり、その力を得るためにそれぞれ努力している。しかし、その他の能力には偏りがあるので。大学生みんながみんな同じサークルや実行委員会に所属しているわけではない。それぞれのサークルや学生会に入ってからそこで身に付けたり、身に付けようとする能力はバラバラで、色々ある。そういうことから、自分が社会人に必要な力を考えるうえで、人それぞれ考え方が違っていると思った。」</p>